

安全データシート

2-プロピン-1-オール

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: 2-プロピン-1-オール
CB番号	: CB4393700
CAS	: 107-19-7
EINECS番号	: 203-471-2
同義語	: 2-プロピン-1-オール, プロパルギルアルコール

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: メッキ光沢剤
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日(物化危険性及び健康有害性)

GHS改訂4版を使用

H31.3.15、政府向けGHS分類ガイダンス (H25年度改訂版 (ver1.1):JIS Z7252:2014準拠) を使用

物理化学的危険性

引火性液体 区分3

健康に対する有害性

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分1(呼吸器、肝臓、腎臓)

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分3(気道刺激性)

発がん性 区分2

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分1B

急性毒性(吸入:蒸気) 区分3

急性毒性(経皮) 区分1

急性毒性(経口) 区分3

分類実施日(環境有害性)

環境に対する有害性はH18年度、GHS分類マニュアル(H18.2.10版)を使用

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分2

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS02	GHS05	GHS06	GHS08	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

- H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性。
- H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ。
- H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。
- H310 + H330 皮膚に接触した場合や吸入した場合は生命に危険。
- H301 飲み込むと有毒。
- H226 引火性液体及び蒸気。

注意書き

安全対策

- P284 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
- P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。
- P273 環境への放出を避けること。
- P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
- P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
- P242 火花を発生させない工具を使用すること。
- P241 防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。
- P240 容器を接地しアースをとること。
- P233 容器を密閉しておくこと。
- P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

応急措置

- P391 漏出物を回収すること。
- P361 + P364 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P314 気分が悪いときは、医師の診察 / 手当てを受けること。
- P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P304 + P340 + P310 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
- P303 + P361 + P353 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。
- P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

保管

- P405 施錠して保管すること。

P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: 2-Propyn-1-ol
化学特性(示性式、構造式 等)	: C ₃ H ₄ O
分子量	: 56.06 g/mol
CAS番号	: 107-19-7
EC番号	: 203-471-2
化審法官報公示番号	: 2-272
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。呼吸停止時はただちに人工呼吸を実施し、必要に応じて酸素も吸入する。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ場合は水を飲ませる(多くても2杯)。ただちに医師の診察を受けること。1時間以内に治療が受けられないという例外的な状況のみ、嘔吐させ(相手に完全に意識のある場合のみ)、活性炭(10%懸濁液に20~40g)を投与してできるだけ早く医師の診察を受ける。中和させようとしないこと。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

二酸化炭素 (CO₂) 泡 粉末

5.2 特有の危険有害性

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

高温で空気と反応して爆発性混合物を生じる。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。

可燃性。

炭素酸化物

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確認する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 液体吸収剤(例. Chemizorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション 13 を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。蒸気やエアロゾルが生じないようにすること。

火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが入りできる場所に入れておく。保管安定性推奨された保管温度2 - 8 °C

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

TWA: 1 ppm - 米国。ACGIH限界閾値 (TLV)

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、

CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet: www.kcl.de)

フルコンタクト

材質: ブチルゴム

最小厚: 0.7 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Butoject® (KCL 898)

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、

CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet: www.kcl.de)

飛沫への接触

材質: クロロブレン

最小厚: 0.65 mm

破過時間: 60 min

試験物質: KCL 720 Camapren®

身体の保護

難燃静電気保護服。

呼吸用保護具

気体ガス/エアロゾル発生時に必要 次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体
色	無色
臭い	ゼラニウム(西洋あおい)類似臭
臭いのしきい(閾)値	情報なし
pH	情報なし
情報なし	
情報なし	
情報なし	
log Kow = -0.38(実測値)(Howard (1997)、SRC)	
水: 1×10+6 mg/L(20 °C、実測値)(Howard (1997)、SRC) 水: (ベンゼン、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、エタノール、エーテル、アセトン、ジオキサン、テトラヒドロフラン、ピリジンに易溶、四塩化炭素に可溶) その他の情報: 大部分の有機溶剤に溶けるが、ガソリン系炭化水素には溶けない。	
(ホンメル (1996))	
0.97(ICSC (1997))	
1.93(ホンメル (1996)、SAXS (2000)、ICSC (1997))	
1.56 mmHg(25 °C、実測値)(Howard (1997)、SRC)	
3.4~70 Vol%(ICSC (1997))	
情報なし	
情報なし	
33 °C(SAXS (2000)、ICSC (1997)、Merck (2006)) 36 °C(ホンメル (1996))	
114 °C(ホンメル (1996)、ICSC (1997)) 114~115 °C(SAXS (2000)、Merck (2006))	
-50 °C(SRC) -52~-48 °C(SAXS (2000)、ICSC (1997)、Merck (2006))	
融点・凝固点	
-50 °C(SRC) -52~-48 °C(SAXS (2000)、ICSC (1997)、Merck (2006))	
沸点、初留点及び沸騰範囲	
114 °C(ホンメル (1996)、ICSC (1997)) 114~115 °C(SAXS (2000)、Merck (2006))	
引火点	
33 °C(SAXS (2000)、ICSC (1997)、Merck (2006)) 36 °C(ホンメル (1996))	

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

情報なし

燃焼性(固体、気体)

情報なし

燃焼又は爆発範囲

3.4~70 Vol%(ICSC (1997))

蒸気圧

1.56 mmHg(25 °C、実測値)(Howard (1997)、SRC)

蒸気密度

1.93(ホンメル (1996)、SAX'S (2000)、ICSC (1997))

比重(相対密度)

0.97(ICSC (1997))

溶解度

水: 1×10^6 mg/L(20 °C、実測値)(Howard (1997)、SRC) 水: (ベンゼン、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、エタノール、エーテル、アセトン、ジオキサン、テトラヒドロフラン、ピリジンに易溶、四塩化炭素に可溶) その他の情報: 大部分の有機溶剤に溶けるが、ガソリン系炭化水素には溶けない。(ホンメル (1996))

n-オクタノール/水分配係数

log Kow = -0.38(実測値)(Howard (1997)、SRC)

自然発火温度

情報なし

分解温度

情報なし

粘度(粘性率)

情報なし

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

蒸気/空気混合物は、強く温めると爆発性となる。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

次と激しく反応

アルカリ性水酸化物/水酸化アルカリ

酸化剤

硫酸濃度

重金属塩

次との反応で燃焼ガスや蒸気の発火または生成のおそれ

リンの酸化物

10.4 避けるべき条件

直火加熱、汚れ、化学物質汚染、日光、UVまたはイオン化電磁波照射。

加熱

10.5 混触危険物質

多様なプラスチック

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

【分類根拠】(1)~(4)より、区分2~区分3が2件、区分3が6件該当する。よって最も多い区分を採用し、区分3とした。新たな情報源の使用及び旧分類時からガイダンス文書の改訂があったことから区分を変更した。

【根拠データ】(1)ラットのLD50値:93 mg/kg(雄)、55 mg/kg(雌)(PATTY(6th, 2012)、NTP TR552(2008)、ACGIH(7th, 2001)) (2)ラットのLD50値:110 mg/kg(雄)、54 mg/kg(雌)(PATTY(6th, 2012)、NTP TR552(2008)) (3)ラットのLD50値:20-50 mg/kg、56 mg/kg、70 mg/kg(PATTY(6th, 2012)) (4)ラットのLD50値:35-110 mg/kg(MAK/BAT(2005))

経皮

【分類根拠】(1)~(3)より、1件が区分1、1件が区分1~区分2、1件が区分2に該当する。よって有害性の高い区分を採用し、区分1とした。

【根拠データ】(1)ウサギのLD50値:16 mg/kg(PATTY(6th, 2012)、NTP TR552(2008)) (2)ウサギのLD50値:88 mg/kg(PATTY(6th, 2012)、NTP TR552(2008)) (3)ウサギのLD50値:16-190 mg/kg(MAK/BAT(2005))

吸入:ガス

【分類根拠】GHSの定義における液体である。

吸入:蒸気

【分類根拠】(1)、(2)より、区分3とした。なお、ばく露濃度が飽和蒸気圧濃度(15,198 ppm)の90%よりも低いため、ミストがほとんど混在しないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。新たな情報源の使用により、旧分類から区分を変更した。

【根拠データ】(1)ラットのLC50値(2時間):2,000 mg/m³(872 ppm)(4時間換算値:617 ppm)(MAK/BAT(2005)) (2)ラットのLC50値(1時間):1,040-1,200 ppm(4時間換算値:520-600 ppm)(PATTY(6th, 2012)、NTP TR552(2008)、ACGIH(7th, 2001))

吸入:粉じん及びミスト

【分類根拠】データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

【分類根拠】(1)、(2)より、区分1Bとした。

【根拠データ】(1)ウサギを用いた皮膚刺激性試験(2件)において、原体適用で刺激及び表層壊死が、10%溶液適用で軽度の刺激性(mild)が見ら

れたとの報告がある(PATTY(6th, 2012)、ACGIH(7th, 2001))。(2)ウサギを用いた皮膚刺激性試験(OECD TG404と同等の試験方法)で本物質を1分間適用したところ、8日後に軽度の壊死が見られ、5分若しくは15分間適用したところ8日後に重度の壊死が見られたとの報告がある(BUA 213(1999)、REACH登録情報(Accessed Jul. 2018))。

【参考データ等】(3)EU CLPでは本物質をSkin Irrit. 1Bに分類している。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

【分類根拠】眼損傷性を示す情報(1)と刺激性を示す情報(2)があるが、前者を優先して区分1とした。

【根拠データ】(1)ウサギを用いた眼刺激性試験で本物質原液を適用したところ、顕著な痛みと刺激が生じ、角膜損傷は不可逆的だったとの報告がある(PATTY(6th, 2012))。

【参考データ等】(2)ウサギを用いた眼刺激性試験で本物質10%溶液を適用したところ、軽度の刺激があったが数日以内に回復したとの報告がある(PATTY(6th, 2012))。

呼吸器感受性

【分類根拠】データ不足のため分類できない。

皮膚感受性

【分類根拠】本物質は皮膚感受性がないことを示す情報(1)も得られているが試験の詳細が不明であり、区分外を判断できる十分な証拠も得られていないため、分類できないとした。なお、証拠の重みづけを再検討することで、旧分類から区分を変更した。

【参考データ等】(1)モルモットを用いた皮膚感受性試験の結果、皮膚感受性を示さなかったとの報告がある(ACGIH(7th, 2001)、PATTY(6th, 2012))。

生殖細胞変異原性

【分類根拠】(1)、(2)より、ガイダンスに従い分類できないとした。なお、旧分類とは異なる情報源を追加し見直し、分類結果を変更した。

【根拠データ】(1)In vivoでは、吸入ばく露によるマウスの末梢血を用いた小核試験において、陰性(雄)、又は不明瞭(雌)との結果(NTP TR552(2008)、PATTY(6th, 2012))、経口投与によるマウスの骨髄を用いた小核試験において陰性の結果が得られている(PATTY(6th, 2012)、MAK/BAT(2005))。(2)In vitroでは、細菌を用いた復帰突然変異試験で陰性、又は陽性(NTP TR552(2008)、PATTY(6th, 2012))、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験で陽性の結果が得られている(PATTY(6th, 2012)、MAK/BAT(2005))。

発がん性

【分類根拠】発がん性に関して、利用可能なヒトを対象にした報告はない。(1)、(2)より、実験動物2種にみられた腫瘍は概ね良性腫瘍であったことから、区分2とした。なお、新たな情報源を用いて分類結果を見直し、分類区分を付与した。

【根拠データ】(1)ラットに本物質蒸気を2年間吸入ばく露した発がん性試験において、高用量(64 ppm)群の雄で鼻腔呼吸上皮の腺腫が3/50例にみられ、頻度は背景データの範囲より高く、また同群の雄で単核球形白血病の頻度増加が報告されている(NTP TR552(2008)、PATTY(6th, 2012))。(2)マウスに本物質蒸気を2年間吸入ばく露した発がん性試験において、雌雄ともに鼻腔呼吸上皮腺腫の頻度の増加傾向があり、高用量(32 ppm)群で有意な増加がみられた(NTP TR552(2008)、PATTY(6th, 2012))。また、高用量群の雄でハーダー腺の腺腫の頻度増加がみられた(NTP TR552(2008))。(3)NTPは本物質は雄ラット及び雌雄マウスに対し、発がん性のある程度の証拠があると結論した(NTP TR552(2008))。(4)国内外の分類機関による既存分類結果はない。

生殖毒性

【分類根拠】データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

【分類根拠】(1)より、区分3(気道刺激性)とした。なお、旧分類とは異なる情報源を追加して見直し、標的臓器を気道として分類結果を変更した。

【根拠データ】(1)本物質は気道に対し刺激性を有するとの記述がある(NTP TR552(2008)、PATTY(6th, 2012))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

【分類根拠】(1)~(5)より、経口及び吸入経路で肝臓及び腎臓、(3)~(5)の吸入経路では加えて呼吸器が標的臓器と考えられ、いずれも区分1の用量範囲で認められたことから、区分1(呼吸器、肝臓、腎臓)とした。なお、旧分類の情報源に新たな情報源を加えて分類を見直し、呼吸器を標的臓器として追加した。

【根拠データ】(1)ラットに28日間強制経口投与した試験において、45 mg/kg/day(90日換算:15 mg/kg/day、区分2の範囲)以上で、肝細胞傷害(核の肥大、空胞化など)、GPT・アルカリホスファターゼ・グルタミン酸デヒドロゲナーゼ活性の増加、コリンエステラーゼ活性の阻害がみられた(環境省リスク評価第6巻:暫定的有害性評価シート(2008))。(2)ラットに13週間強制経口投与した試験において、15 mg/kg/day(区分2の範囲)で肝臓への影響(肝臓重量増加、肝細胞空胞化、胆管増殖、巨赤血球増多)、腎臓への影響(腎臓重量増加、尿細管上皮細胞の巨大核増加)がみられた(環境省リスク評価第6巻:暫定的有害性評価シート(2008)、PATTY(6th, 2012)、IRIS(1990))。(3)吸入経路ではラットに本物質蒸気を3ヵ月間にわたり吸入ばく露(7時間/日、5日/週、投与日数59日間)した試験において、80 ppm(ガイダンス値換算:0.14 mg/L、区分1の範囲)で、肝臓及び腎臓に重量増加に加えて、変性様変化がみられた(ACGIH(7th, 2001)、PATTY(6th, 2012))。(4)ラット又はマウスに本物質蒸気を14週間吸入ばく露(6時間/日、5日/週)した試験において、16~64 ppm(ガイダンス値換算:0.03~0.12 mg/L、区分1の範囲)でラットの鼻腔に呼吸上皮の過形成、同扁平上皮化生、臭嗅上皮の壊死がみられた。またマウスには鼻腔の化膿性炎症、呼吸上皮の扁平上皮化生・硝子滴変性、臭嗅上皮の萎縮・壊死・腺組織の過形成、鼻甲介の萎縮がみられた(NTP TR552(2008)、PATTY(6th, 2012))。(5)ラットとマウスに2年間吸入ばく露した試験において、ラットで16 ppm以上、マウスで8 ppm以上の濃度(ガイダンス値換算:0.015~0.03 mg/L、区分1の範囲)で両種ともに13週間吸入ばく露試験と同様の変化が鼻腔の呼吸上皮及び嗅上皮にみられた(NTP TR552(2008)、PATTY(6th, 2012))。

吸引力呼吸器有害性

【分類根拠】 データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

流水式試験 LC50 - *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ) - 1.53 mg/l

- 96.0 h

ミジンコ等の水生無脊

固定化 EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 3.36 mg/l - 48 h

椎動物に対する毒性

(OECD 試験ガイドライン 202)

藻類に対する毒性

成長抑制 EC50 - *Desmodesmus subspicatus* (緑藻) - > 98.1 mg/l - 72 h

(OECD 試験ガイドライン 201)

12.2 残留性・分解性

生分解性

好気性 - 曝露時間 28 d

結果: 95 % - 易分解性。

(OECD テスト ガイドライン 301C)

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：2929 IMDG（海上規制）：2929 IATA-DGR（航空規制）：2929

14.2 国連輸送名

IATA-DGR（航空規制）：Toxic liquid, flammable, organic, n.o.s. (prop-2-yn-1-ol)

IMDG（海上規制）：TOXIC LIQUID, FLAMMABLE, ORGANIC, N.O.S. (prop-2-yn-1-ol)

ADR/RID（陸上規制）：TOXIC LIQUID, FLAMMABLE, ORGANIC, N.O.S. (プロパルギルアルコール)

14.3 輸送危険有害性クラス

(3) (3)

ADR/RID（陸上規制）：6.1 IMDG（海上規制）：6.1 (3) IATA-DGR（航空規制）：6.1

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：I IMDG（海上規制）：I IATA-DGR（航空規制）：I

14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

多様なプラスチック

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(法第57条、施行令第17条別表第3第1号並びに施行令第18条及び第18条の2別表第9)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)

第一種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

消防法

第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)

大気汚染防止法

有害大気汚染物質(中央環境審議会第9次答申)

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本
Chemical Book

MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。